



## ○ ひなん

防災避難訓練(火災対応)のことです。21日(金)に行います。どこの学校でもどこの事業所でも毎年行っていることだと思います。内容はほぼ同じだろうと推測します。そのため緊張感は少しずつ薄れていくのかもしれませんが、しかし、私は毎年実施することが大切だと思います。放送機器の使い方を確認したり、どのような役割分担があるのかということのを再認識できたりします。内容はマンネリでも定期的に行うことは重要です。私の当日の役割は全体を観察した後の総評が主となります。「実施することに意義がある。」ということは伝えますが、あまり長い話になっても内容が伝わらないと思うので、いつでもできるだけ手短かにしようと努めています。ここでは総評で話さないことを紹介してみます。

私は火災の当事者になったことが、思い出してみると4回あります。4回とも種類が違います。いずれも大火災にはならなかったのですが、今こうやって紹介することができています。その中の一つ、勤めていた学校での出来事です。NHKの夕方のニュースで放送されてしまいましたのもう公の出来事です。運動会の練習中、放送係の担当をしているとき音声途切れしました。電源を引いている体育館の配電板を見てくるよう生徒に指示をしました。すぐにその生徒は慌てて帰ってきて「天井が燃えています！」と言うではありませんか。体育館に入り、見上げてみると直径50cmくらいの炎が存在していました。すぐに近くの花の水やり用のホースで消そうとしましたが、その程度の水圧では天井に届くはずありません。消火栓の準備を始めるよう指示を出して、私は消防署に緊急通報をしました。このとき携帯電話を携帯していなかったので電話のある職員室までの100mを全力で走りました。この間、私の頭の中では体育館が全焼している映像がはっきりと浮かんでいました。結論を言いますと天井は基本的に防災素材でしたので、じきに消えました。原因は老朽化のための漏電でした。

もう一つお知らせしましょう。私が住んでいる地域に祠ほこらがあります。ここは住人が輪番制で周りの掃除をしたり榊を新しいものに変えたりというふうにお世話をしています。この役割は1年間あります。私が役割のとき、少し大掛かりな掃除をすることがありました。いつもの年と同じ様に集めた落ち葉は燃やして処理します。火が小さくなった頃、役割の仲間と打合せをして終了しました。私は自宅に帰ってからなんとなく気になったので、もう一度火の元を確かめておこうと一人で祠に戻りました。燃やしていたところはほとんど鎮火しておりほっとしたのですが、不思議な音がしたので上を向いてみたら…。樹木の地面から5mくらいのところが小さく燃えているではありませんか。水道の設備はありません。そばに小さな溝があり、ちょろちょろ流れているだけです。バケツに水がたまるのをいらいらしながら待ち、たまった水をかけますが火にはなかなか命中しません。仕方がないのでケツくわを銜えてよじ登り、どうにか消すことが出来ました。この時もケイタイをもっておらず、その場には私一人だけだったので相当焦りました。私の頭の中では山火事の映像がはっきりと浮かんでいました。その後、落ち葉を燃やすという処理はしないことに決めました。山火事や住宅火災で逃げ遅れて亡くなるという悲しいニュースがときどき報道されます。私はこの経験から、“逃げることはできるが、火を出した責任から消火作業をしているうちに手遅れになった。”ということがあってはならないかと想像しています。

恥ずかしながら私の苦い経験を紹介してみました。このたよりを読んでくれた人の、今後の参考になればうれしいなと思います。

## ○ 自校自賛

今回の植物：ビバーナム

ビバーナム・スノーボールとも言います。オオデマリとそっくりですが、葉の形が少し違います。今の時期、木全体にたくさん“ボール”が咲いているところを見ると楽しくなります。

